

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470501574
法人名	有限会社 厚生会
事業所名	グループホーム「なのはな」
所在地 (電話番号)	津市柳山津興3306番地 (電話) 056-221-5600
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 9 月 16 日 (火)

【情報提供票より】 (H20年 8月28日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 2 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 14人、非常勤 2人、常勤換算	14.18人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	27,000 円	
敷 金	有(円) <u>無</u>			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / <u>無</u>	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200円			

(4)利用者の概要(8 月 28 日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名	
要介護1	2 名	要介護2	4 名			
要介護3	4 名	要介護4	6 名			
要介護5	2 名	要支援2	名			
年齢	平均	85.5 歳	最低	74 歳	最高	99 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	ゆり形成内科整形 若葉病院 磯田歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市街地にあり、医療連携体制が構築され、利用者や家族にとってはいろいろな意味合いで安心できる条件が伺える。「心の癒しを介護の心得」として、入居者の個を尊重しコミュニケーションを図り、家族や入居者の意向を中心に戸外への活動を重視した介護実践を心掛けている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>市事業委託化の問題や地域への働きかけで、地域密着型施設としての確立を一步前進させた努力が伺える。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を全体的なものとして、介護職員全体で作成したことで、評価に意義や改善指摘に取り組む姿勢が伺える。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議の開催を増やす努力と自治会や老人会などからの参加を増やし、地域の意向が把握できる会議の運営が望まれる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会を立ち上げ、より多くの家族から率直な要望意向を把握し運営に反映させることを期待する。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域自治会や老人会、民生委員、地域包括支援センターとの連携で、地域密着型施設として認知されるような積極的な働きかけが望まれる。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「心の癒しを介護の心得とします」を理念として、暮らしを支えるサービスの基本としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を詰所やホールに掲示すると共に、職員名札の裏面にも明記し朝礼時に確認する等共有と実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域自治会活動に参加し、夏祭り、音楽会等の催し行事を通して地域住民に情報を発信して、積極的に交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解しており、改善などの指摘については積極的に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3か月に一回の開催を目標にし、毎回テーマを提示することで意義ある会議になるよう取り組んでいる。	○	運営推進会議を2か月に1回開催する、又出席メンバーに地域住民(自治会・老人会)、地域包括支援センタースタッフ等の参加を要請し、サービス向上への意義ある推進会議となる積極的な取り組みを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	常日頃、相談や助言をいただくなど市町担当者と緊密な連絡を取り、指導・協議をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「なのはな」便りを発行し、事業所の行事や個別の暮らしぶりや健康状態について報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御意見箱を設置、面会時に家族に話しかけ直接意見を聞くことで、家族の意向や意見を把握し改善に向けた検討や話し合いをしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動を含めて、日頃から家族や入居者との信頼関係が維持されるように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護職員の技術向上の為に、協力医療機関で実践的(応急処置・リハビリ)研修を受講している。毎月2~4人交代で参加し実践に生かしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入している。近々開催される三重県大会に出席する予定である。介護職員の参加を積極的に実践していく。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と共に見学や体験入所の機会を設ける等で対応している。入居者が事業所に馴染めるように焦らず対応することを心掛けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	暮らしの中で入居者と一緒に役割や楽しみ事をこなし、共に教えられ支えあう関係を築く配慮をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや意向について関心を払い、日頃の介護実践、ユニット会議、カンファレンス等で情報交換し、意見の把握と共有に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は計画作成担当者がアセスメント情報や家族の意向を基に作成する。作成担当者は実践可能な介護計画の作成に努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画見直しは、介護実践記録からモニタリングされた状況や意向を、カンファレンスや検討会で協議し、最低3か月に1回、介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関への受診や個別な外出に即対応できるようにしている。特に医療機関の受診は、協力医療機関が1階と近隣にあるため入居者にとっても利便性がある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者・家族の意向に応じてかかりつけ医や希望する医療機関の受診、協力医療機関と情報交換を行い対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期については、かかりつけ医、家族と情報を共有することになっている。	○	重度化や終末期の情報を、かかりつけ医・家族・入居者と共有し、その意向でサービスの提供がなされるような、事業所の方針を確立されることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者のカルテなど個人情報は個別にファイルされて、適切な保管がなされている。介護場面でも言葉に気をつけて、個々に対応することを心掛けている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り日課や習慣などに捉われず、食事・入浴・外出や入居者の状況に応じて個別に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の体調や能力にあった下ごしらえや準備、片付けを手伝ってもらったりしている。食事介護担当者以外の職員は、入居者と一緒に食事をしながら、会話を楽しくめるように配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴が困難な方には機械浴・1階大浴場での一般浴、体調不良や家庭的な入浴を希望する利用者には各ユニットの浴室使用等、それぞれの状況に応じて、週2回の入浴を実施している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活史や入居者の意向を把握し、園芸、読書等暮らしの中に楽しみや役割を持てるように配慮している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	施設周辺の散歩、買物、ドライブ等、できる限り入居者の希望に応じる外出支援を心掛けている。また、施設建物内のデイサービスとの交流も楽しめるよう行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員が見守る対応をすることで鍵をかけない管理を実践、ストレスをためない開放的な施設となるよう心掛けている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	開設当初、隣家の火災で避難をした経験から、防災訓練や災害時避難について、いつも意識するようになっている。事業所が2階にあるということで、近々非常用シュートを点検し避難訓練を考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の配置で、献立から調理まで適切な給食がなされている。栄養状態や水分補給については日頃の介護場面でチェックされ個人記録に記載されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの南面にテラスがあり、自然光を取り入れて明るい空間づくりに配慮されている。また、食卓台などに季節の花を飾り、季節感を取り入れる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段使っておられた物を持ち込んで頂いている。入居者の個別な意向で、家具、装飾や調度品が配置され、安心して過ごせるように配慮している。		